

危険の認識について、ひたすら沈黙！！**会社は安全を語るな！！もし労災が起こればすべて会社の責任だ！！**

12月11日、地本は「2020年度職場改善諸要求（車両所関係）」に関する申し入れ（9月28日付）について関西支社と業務委員会を開催しました。参加者は、組合側は柳楽副委員長、笹田副委員長、今田組織部長、西業務部長、渡邊組織担当部長、細田車両担当部長。会社側は、小泉人事課課長代理、辻井運輸課課長代理、丹藤車両課課長代理、岡本人事課係長でした。

この業務委員会の中で会社は、組合側からの安全に係わる質問に対して、壊れたレコーダーのように「現行通りです」と繰り返すばかりであり、危険な状態を承知していながら一切答えようとはしませんでした。また、会社の安全に対する無責任な対応が明らかになりました。

交渉の一例を紹介します。

【組合要求】仕業庫2番線海側及び3番線山側のサービスデッキ下のパイプやアングルは13号車から16号車付近までは地上から180cm位の高さになっているが、1号車から12号車付近では160cm位しかなく、側検査を行う際に非常に危険である。労災防止の観点からも早急に改修すること。

【会社回答】現行通りとする。なお、通行時には十分に注意されたい。

（若干のやり取り）

組合：通行時には十分に注意されたい、という回答はこの場所が危険であると認識しているのか。

会社：・・・・現行通りです。

組合：そんな事は聞いていない。危険との認識があるのかを聞いているのだ。

会社：・・・・現行通りです。

【組合要求】配備されている自転車の点検・整備は誰が責任をもって行うのか明らかにすること。

また、使用者が行うとなれば安全上問題があるので業者に点検・整備させること。

【会社回答】現行通りとする。

（若干のやり取り）

組合：「現行通りとする。」という回答だが、現行がどうなっているのか知っているのか。

会社：・・・・（沈黙）

組合：現行は社員が自転車の点検・整備を行なっている。これで良いのか。

会社：・・・・現行通りです。

組合：ちゃんとした教育を受けていない素人が点検・整備を行なっている。これで事故が起これば誰が責任を取るのか

会社：・・・・（沈黙）

組合：答えなければ、すべての責任が会社にあることを確認する。